日本性科学会ニュース

第34巻 第3号　　平成27年（2015年） 9月

発行人：大川　玲子　印刷所：㈱ 絢 文 社

第35回日本性科学会／第16回性科学セミナー　開催予告

日　　時：2015年10月11日（日）第35回日本性科学会　/　2015年10月10日（土）第16回性科学セミナー
会　　場：埼玉県県民健康センター　1F 大会議室 A および B、2F 大ホール
〒330-0062　さいたま市浦和区仲町3-5-1　TEL　048-824-4801
JR 浦和駅（西口）より800ｍ（徒歩約10分）または JR 中浦和駅（西口）から1,100ｍ（徒歩13分）
参 加 費：日本性科学会　5,000円（学生1,000円）、性科学セミナー　3,000円（学生1,000円）
日本性科学会＋性科学セミナー　7,000円（学生2000円）
合同懇親会：2015年10月10日（土）17:30～19:30　埼玉県県民健康センター　1F 大会議室 C
会費：5,000円（料理：女子栄養大学　松柏軒レストラン）

第16回日本性科学連合性科学セミナー

日　　時：2015年10月10日（土）13:00～17:00
テ ー マ：常識化している性の非常識
［講　演］　座長：齋藤益子（帝京科学大学医療科学部看護学科）
①「あれも、これも、常識化している性の非常識」　北村邦夫（一般社団法人日本家族計画協会）JFPA
②「第２次性徴ー男と女のターニングポイント!?」　池上千寿子（NPO 法人ぷれいす東京）JASE
③「オーラルセックスと感染症…すでに常識なのか？」　濱砂良一（産業医科大学医学部泌尿器科学）JSSTI
④「科学にならない「包茎」」　岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター〔オフィスいわむろ〕）JSA
［講　演］　座長：高波真佐治（東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科）
⑤「本邦の医学部における性医学教育の現状」　白井雅人（順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科）JSSM
⑥「性依存症加害者の性行動の実態」　榎本　稔（榎本クリニック／日本「性とこころ」関連問題学会）JFSHM
⑦「認知行動療法の視点から見た性の非常識」　石丸径一郎（東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース）JSSS

第35回日本性科学会学術集会

日　　時：2015年10月11日（日）8:55～15:40
会　　長：石原　理　埼玉医科大学産科婦人科学教授
テ ー マ：性のディスクールを超えて
特別講演：「民俗生殖理論と性」　東京外国語大学総合国際学研究院（文化人類学）　栗田　博之
教育講演：「性機能と骨盤臓器脱（POP）－手術療法を中心に－」
埼玉医科大学産科婦人科・女性骨盤底医学センター　永田　一郎
理事長講演：「日本性科学会のあゆみ」　日本性科学会理事長　大川　玲子
シンポジウムⅠ：「コミュニケーションとしての性を教える」　座長　金子由美子
包括的セクシュアリティ教育における「コミュニケーション」　埼玉大学教育学講座　田代美江子
なぜ、いま、生きる力を育む性教育が求められているのか
ヘルスプロモーション推進センター・オフィスいわむろ　岩室　紳也
心地よさを伝えるコミュニケーションが性を育む　NPO 法人JASH 日本性の健康協会　やまがたてるえ
性感染症予防は2つのコミュニケーションから　埼玉医科大学地域医学・医療センター　高橋　幸子
シンポジウムⅡ：「エ・アロール～中高年からの性を謳歌する　座長　堀口　貞夫
指定発言　浜野　佐知
前立腺とセクシュアリティ　川崎医科大学泌尿器科　永井　　敦
もっと知ってほしい自分の、相手の、「からだと心」。年はとっても大切な生と性。
女性成人病クリニック、主婦会館クリニック　堀口　雅子
中高年の性―アンケートと臨床現場から　日本性科学会カウンセリング室、主婦会館クリニック　金子　和子
中高年の性的活動性　埼玉医科大学産科婦人科・女性骨盤底医学センター　岡垣　竜吾
一般演題：

第35回日本性科学会事務局：〒350-0495　埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38
埼玉医科大学産科婦人科学教室 担当：鈴木元晴
TEL：049-276-1347（産婦人科医局）FAX：049-294-8305
E-mail: jsss35@saitama-med.ac.jp　学会ホームページ：http://jsss35.kenkyuukai.jp/

Vol. 34
No. 3

日本性科学会
〒113-0033　東京都文京区本郷3－2－3　森島ビル4F
TEL・FAX　03－3868－3853

〔症例研究会より〕

臨床心理学的視点からみる性機能の低下
TENGA紹介と医療・教育領域における可能性の模

株式会社 典雅　　中　野　有　沙

今回の研究会では、前半「臨床心理学的視点からみた若年男性の性機能の低下」について、後半「TENGA紹介と医療・教育領域における可能性の模索」について取り上げた。以下、前半と後半に分けて、各内容について述べる。

臨床心理学的視点からみる性機能の低下

近年、恋愛や性行動に対して消極的な若年男性について取り上げられることがある。しかし、恋愛や性行動と身近であるはずの性機能が同時に問われている調査は見当たらず、若者の性機能の現状に焦点を当てた研究も見当たらない。そこで、修士論文において若年男性の性機能・性欲、性交に対する消極的な態度、性に対するネガティブな態度と生活習慣の実態を質問紙調査により把握し、考察することを試みた。ここでは、その結果の一部を検討する。

調査で得られた18～30歳の若年男性121名（平均22.5歳）の内、国際勃起機能スコア（IIEF）を用いて、4週間以内に性交を試みた者43名（平均22.9歳）とIIEF作成時の29～89歳（平均56歳）の対象者（平均56歳）のスコアを比較したところ、「勃起」「極致感」「性欲」「性交の満足度」「全般の満足度」のいずれの項目においても、現代の若年男性のスコアが平均56歳のスコアを下回っていた。

このような現状の背景として、新たに作成した性交に対する消極的な態度尺度を用いた重回帰分析の結果から、相手の反応や相手との今後の関係性を考えるあまり、性交に対して消極的な態度であることを示す因子が影響していることが示唆された。この因子は、Erikson（1959/1973）の「基本的な信頼の感覚」に類似していると考えられた因子であり、乳幼児期の養育者との関係性が性交に対する行動だけでなく、性機能や性欲にまで影響する可能性があることが考えられた。

TENGA紹介と医療・教育領域における可能性の模

私は、学生の頃からの性に関する悩みやセクシュアルマイノリティの支援活動経験から、日本の抱える性に関する問題に取り組むべく、若者の認知度が高く、影響力を持っているであろうTENGAに今年の4月に新卒社員として入社した。現在は、性に関する学会や講演会に参加し、現場の声を聴きながら、臨床心理士見込みとしての自分やTENGAとしての自分に何が出来るか模索中の段階である。

図1　TENGA

弊社の医療・福祉領域における現段階では、国内外において膣内射精障害やEDのリハビリテーションツールとしてのTENGA（図1）の使用やTENGAを使用する際の補助具の開発などの支援活動が行われている。しかし、日本の性問題に取り組む企業として取り組める事はまだあると考えている。女性性機能障害のリハビリテーションツールとしての弊社のiroha（図2）を含む女性向けのセルフプレジャーアイテムの活用、ツールによるパートナー間でのセックスレス解消のキッカケづくり、セクシュアルマイノリティが快く使用できるツールの開発、お互いの健康と楽しみを考えた性教育の普及、精神や身体障害による性の悩みから心身の健康が保たれていない人への支援など、今後視野に入れていければと思っている。

今回の症例研究会や参加した講演会などから、医療・教育・福祉領域でのTENGAの認知度はあるにしろ、製品に関しては実際に知らなかったり、触れたことがなかったりする方が多いことを実感した。そのため、まずは実際に手に取っていただき可能性をご検討くだされば と思っている次第である。

図2　iroha

最後に

現在、TENGAではセクシュアルウェルネスを目的とした製品の活用方法や新規開発を考案中でもあるため、医学的な視点からの活用方法やこんなツールがあればなどのご提案やサンプルが欲しいなどのご意見があれば是非TENGAの中野までご連絡いただければ幸いです。今後とも医療・教育・福祉の領域において模索しながらも性に悩む多くの人の心身の健康の為、精進して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

◆連絡先（中野）：e-mail　nakano@tenga.co.jp　tel 03-6684-5811

・Erikson, E. H. (1959). Identity and the Life Cycle. Psychological issues, 1 (1). 小此木啓吾（訳）(1973).「自我同一性」アイデンティティとライフサイクル．誠信書房.

第22回 性の健康世界学会（WAS）報告

東京慈恵会医科大学医学部看護学科　茅　島　江　子

第22回性の健康世界学会（WAS）は、P Ganesan Adaikan会長のもと、2015年7月25日～28日にシンガポールで開催されました。日本からの参加者は、オーストラリアに次いで2番目に多い35名でした。シンガポールの気温は30℃前後で湿度が60～70%と高く、昼間歩くと熱中症になりそうでしたが、会場の冷房は効いていて寒いくらいでした。

さて、学会で、私達はポスター発表があり、会場を探しましたが、広い廊下の壁際にポスター用の電子ボードが3台置いてあるだけでした。電子ボードの近くにはほとんど人がいなくて、他の発表者との意見交換もできず残念でした。その後、気を取り直して、興味深い講演を聴いてきましたので、いくつかご紹介したいと思います。

■「2つの心の話」WAS会長Kevan Wylie氏

ペニスの身体醜形障害（PDD）、小さいペニス不安（SPA）、対照群の3群を比較し、PDDは対照群よりも不安、社会恐怖症、落ち込みの得点が高く、精巣の大きさや男性性の特徴に関連した不安があり、国際勃起機能スコア（IIEF）でも勃起機能、オルガムズの機能、性交満足感、全体的な満足感が低かった。SPAは性交満足感が対照群より低く、PDDとSPAは対照群よりもペニスのサイズや形を変えようと試みる傾向にあった。ペニスは歴史的にみても、多くの男性にとって、男らしさ、豊かさといったウェルビーイング感覚の中心とのことで、ペニスに対する「期待」と「恐れ」の「2つの心」が男性の性機能や精神面に影響するというお話でした。

■「肛門性交ー事実とフィクション」Richard Hillman氏

肛門性交は快感という観点からは、生理学的に性感帯であり、挿入者にとってはよりきつくフィットする、優位／服従のロールプレイともなる。病態生理学的には、基本的に未知ではあるが、外傷、感染、精液／潤滑／娯楽の薬／他の化学製品と関連する。肛門性交の大半は外傷なしに行われるし、外傷はコミュニケーションによる合意、時間と潤滑剤で簡単に避けることができる。肛門癌はめったにないが、セックスパートナーの人数に密接に関連する。不快や同意のない肛門性交は排除すべきであるとのこと。私自身、肛門性交に関する知識がなかったことを実感し、知っておかなければいけないと思いました。

■「若者のための性の健康と権利ワークショップ」WAS公式委員会

2014年3月に改訂された「性の権利宣言」をもとに、「若者と性の権利」Anton氏、「インターネット：若者の性への新たな脅威と可能性」Stefano氏、「表裏一体:若者の声を届けることと受け止めること ムーブメントのための対話」柳田正芳氏のプレゼンがあり、その後、中国、ドイツ、フィンランドなど、各国の参加者と意見交換を行い、交流することができました。「最大の悲劇は、強い情熱を伴う的外れの支援活動である」という柳田さんのメッセージは、私達の支援活動が陥りやすい落とし穴の存在を自覚させてくれました。

■「性的な喜びージェンダーの問題」Ellen Laan氏

性的な喜びは、ヘテロセクシュアルの男性の90%はオーガズムを感じているのに、女性は30～50%。女性が女性とセックスすると80%がオーガズムを感じる。多くのヘテロセクシャルの女性は、パートナーの性的な喜びを優先するが、それには宗教や社会、文化や地域、性に肯定的な国かどうかも関係する。性教育には性的な喜びの教育を含めるべきとのこと。日本の若者のセックスレスが危惧される中で、スウェーデンのユースクリニックには女性の自慰の仕方に関する小冊子があったことを思い出しました。性的な喜びを性教育の中に取り入れるのは難しい課題ではありますが、考えていく必要があると思いました。

■「泌尿婦人科医は、女性の性的健康を改善できるか？」Roy Kwok Weng Ng氏

骨盤臓器脱があると、腟性交の困難、当惑、ボディイメージの変更による抑うつが原因で性交をしなくなるとのことでした。私達の骨盤臓器脱でペッサリーを挿入している女性7名へのインタビュー調査でも全員が性交をしておらず、それには精神面の影響も大きいのだと感じました。講演の最後に、小陰唇が大きい女性の小陰唇を切除して小さくした手術の紹介がありました。昨年の国際助産師連盟大会（プラハ）で、小陰唇を小さくして小児のような外陰部にする美容外科が流行っていることへの問題提起があり、美容外科が本当に必要なのか、男性のニーズに合わせて行われているのではないか、ジェンダーの問題として気になりました。以上、WASでは性科学の最新知見に幅広く触れることができました。

もちろん、学会の合間にですが、ナイトサファリでは暗闇の中で象やキリンに出会い、世界遺産の植物園では美智子妃の名前のついた蘭の花を見つけ、大観覧車の上からはシンガポールの港や屋上に船の形をした空中公園が乗っかったホテルを眺め、楽しい時間を過ごすことができました。次回のWASは2017年にチェコのプラハ、AOFSは2016年3月31日に韓国の釜山で開催されます。

第44回セックス・カウンセリング研修会開催報告

埼玉メディカルセンター　花　村　温　子

5月24日（日）、第44回日本性科学会セックス・カウンセリング研修会を開催いたしました。参加者は67名でした。今回は、様々な領域におけるセックスカウンセリングの実際について、看護師・道木 恭子先生、産婦人科医師・宋 美玄先生、泌尿器科医師・今井 伸先生、精神科医師・織田裕行先生から、それぞれお話しいただきました。また、「カウンセリングの実際」と題して臨床心理士・金子和子先生からご講義いただき、その後は恒例となってきたグループでのロールプレイを行い、カウンセリング技術の向上を目指しました。参加者の皆さんから戴いたアンケートのまとめを以下に抜粋します。

アンケート提出者は32名で、会員は30名、非会員が2名でした。職種は医師12名、臨床心理士3名、看護職7名、教育職2名、その他9名となっていました。その他には、薬剤師、学生などが含まれています。複数の資格を持っている方もおられたため、合計数はアンケート提出者数を超えています。

講義について「わかりやすい」「興味深い」「役に立つ」のそれぞれの項目で5件法で求めましたが、おおむね好評をいただきました。その他、自由記述でご感想を戴いておりますので、そちらもいくつか紹介いたします。

・大変勉強になりました、ありがとうございました。（医師）
・ロールプレイは1時間に2例が限界のように思いました。（助産師）
・いつも充実して楽しい研修ありがとうございます。ロールプレイングは去年、今年と参加させて頂き、「待つ心」「質問の大切さ」などあらたな気付きを頂きました。去年はドキドキでしたが、少し今年は慣れました。またよろしくお願いします。（看護職）
・参加することが出来て大変勉強になりました。また参加したいです。ありがとうございました。（臨床心理士資格受験準備中・会社員）
・不妊治療中の方の相談を受けている中、夫婦生活の悩みを聞くととても深刻なものがあり、この研修会を受講することで少しでも情報提供出来ればと思い、勉強に来ています。貴重なお話をありがとうございます。（看護師）

今後も、会員の皆様の役に立つ研修会を開催していきたいと思いますので、研修内容のご希望などあれば是非お寄せ下さい。来年度も同じ時期に開催を予定しておりますので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

第14回アジア・オセアニア性科学会のお知らせ
（The 14th congress for Asia Oceania Federation of Sexology）

開催地・会場：Commodore Hotel, Busan Korea
期　日：2016. 3. 31(Thu) ～ 4. 3(Sun)
会　長：Prof. Nam Cheol Park

開催日が日本の年度移行時期ですが、隣国の韓国は釜山開催です。スケジュールをやりくりして参加しませんか。
ホームページは aofs2016.org（Asia Oceania Federation of Sexology のホームからも入れます）
前回同様、AOFS Japan の企画で、若手性科学者数名の発表に奨学金を予定しています。詳細は日本性科学連合事務局（info@jfs1996.jp）までお問い合わせください。

（文責：大川玲子）